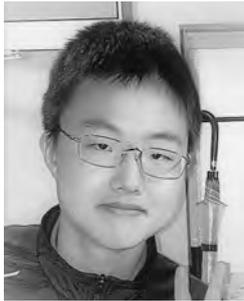


# 入学者のことば

## 大学生になって

歯学科1年 難波 秀 昭



2002年生まれは不幸である  
と聞いたことはあるだろ  
うか。小中高の修学旅行で  
の目玉を見ることが出来な  
かったという話だ。私の場  
合、日光東照宮や清水寺の  
工事、首里城の消失といっ

たものに当たってしまい、思えば、修学旅行の思い出の中には常に工事現場の足場の風景があった。だから、私の代で大学入試が変わったことも、緊急事態宣言から始まった受験生活も2002年生まれのせいなのかと思わせた。

はじめての共通テストに対し、自信をもって指導をできる先生は少なかった。情報がほとんどなかったからである。孤独と不安は常に背後にあった。あんなに一年を長く感じたのは初めてであった。

そんな毎日が合格通知によって大きく変化した。受験勉強が終わった事を自覚したとき、したいと思っていたことが何もなかったことに驚いた。早く受験が終わればいいのにと、どれだけ思った事だろうか。しかし、その先の生活については全く考えていなかった。まさか一人暮らしが始まるとは思いもしなかった。地図で見た新潟は、思っていたよりも東京から離れていた。

一人暮らしは大変である。自分のことはすべて自分でしなければならない。今までどれだけ母に頼っていたのか思い知らされる。一人だけの家に

残された使った食器たちほど嫌なものはない。しかし、一人暮らしは楽しい。夜遅くまで友達と遊んでいても、好きなものを買っても、すべては法の下に自己責任の上で許されている。これぞ大学生活だ。

コロナ禍で不完全燃焼に終わった高校の部活動の経験から、大学では2つの部活に参加し、今度こそは思い切り楽しみたいと考えている。そして、良い友達や先輩方との出会いに感謝したい。また、様々な交流の中で、自分の価値観も大きく変わった。丁度、男子校の環境が如何に異質だったのかを感じているところである。

自分の中で大きく変わったものといえば、歯科医師に対する認識である。高校までは、親や親戚が身近な歯医者として居た。ただ、実家から離れた新しい環境で、先輩やOBの先生方の話を聞いたり、早期臨床実習での講義を聞いたりするうちに、より具体的な未来を考えるようになった。そして、歯科医師としての両親が大変に偉大に感じるようになり、改めて誇りに思うようになった。

ポストコロナの日本は不透明で、不安なところも多い。そこで私は、これからの医療がどのような変化を遂げるのか、新しい歯科医の在り方とは何かについて新潟大学で学び、友と語り合う中で見定めていきたいと思う。この先、多くの山谷を乗り越えていこう。ただ、それを運命として受け入れるのではなく、自らの手でつかみ取った未来にしたいと思っている。

だから私は、もう2002年生まれを不幸だとは思わない。ピンチはチャンスという言葉を胸に前に進む。

## 歯学部に入學して

歯学科1年 塩原匠翔

私が、新潟大学の歯学部に入學してからおよそ3ヶ月が経過しました。まだまだ新型コロナウイルスも猛威を奮っており、様々な行動が制限されています。私たちも去年と同様に早期臨床実習で実際に病院内に入るということが叶いませんでした。しかし、去年の先輩方よりも対面型の授業が増えているため、同期と少しずつではありますが仲良くなることができていると感じます。これから6年間ずっと一緒に学んでいく仲間たちともっと仲良くなれるように努力していこうと思います。

さて、時節柄まだまだ非対面型の授業が多く、一週間のうちの約半分をお家で引きこもっているような私ですが、最近熱中していることがあります。それはお料理です。こんなご時世柄ですから外食に頼ることも憚られるので、なるべく自分で簡単なものは作ろうと思ってインターネットを見ながら試行錯誤して作っています。なんやかんや失敗もしながらですが少しずつ作れるものが増えてきて、とても達成感を感じています。自粛生活もマンネリ化してきてしまった方はお料理してみるのはどうでしょう？案外私のように楽しくなってしまうかもかもしれませんよ？(笑)

私が、この3ヶ月ちょっとした間で一番心に残った授業は早期臨床実習です。数少ない対面の授業で、同期と一緒に同じ空間で同じ目標に向かって進んでいけるというのはモチベーションにも繋がりますし、何より楽しく感じます。また、もともと興味のある分野のさらに詳しいところまで教えていただけることもあり、普段のGコードの授業よりも真剣に聞いてしまっている気がします。自分がこれまで知らなかった専門の科のプロフェッショナルから歯学の専門科についての深い知識を学ぶことができるのでとても参考になるし、何より新しい知識を得ることはとても楽しいです。自分の将来に直接生きるものになってくるので、これからもっとより真剣に授業に取り組んでいき

いと思います。

歯学科の幹事にノリとテンションだけでなってしまう私ですが、仕事を引き受けたからには全力で自分にできることをやっていきたいと思っています。もっと同期のみんなや先輩方と学部内外関係なく仲良くなって大学生ライフをエンジョイすると共に、今後6年間同じ志を持つ仲間たちとともにしっかりと学習を重ねていき、将来立派な歯科医師になって多くの人の役に立てる人間になれるように全力で頑張っていこうと思います。まだまだ未熟なところの多い私ですが、「コツコツ努力することができる」という自分の長所を生かして様々な部分をカバーしていこうと思います。同期のみんなや先輩方、そして教授の皆様方、これからどうぞよろしくお願いします。

## 入學者のことば

歯学科2年次編入生 平岡望々



新潟大学の歯学科に編入し、早くも三か月が過ぎました。編入学が決まってからは、歯科医師を志す学生として始まる新生活に期待がふくらみました。一方で、岡山県出身である私は瀬戸内海の温暖な気候で暮らしたことしかなかったのも、気候も異なる遠く離れた新潟での生活にうまくやっていけるのか、知り合いも頼る人もいないけれど大丈夫なのかとコロナ禍での勉強や学校のこと以外にも不安が多くありました。しかし今では友達もでき、オンラインと対面で行われている授業の勉強や課題に追われつつも、充実した日々を過ごしています。

私は、高齢化が進む日本において、縁の下の力持ちとなって口腔の健康やQOLの向上を支える歯科技工士に魅力を感じ、以前の大学では歯科技工を学び、免許を取得しました。しかし歯科技工を専攻する中で、自分が想像していたものと現実では大きなギャップがあり、歯科技工士が減少している事や労働環境が良くない事に私は大きな衝

撃を受けました。そしてベトナムでの海外研修に参加し、現地で働く日本人歯科技工士の方から、「体制や環境が整ってなければ医療従事者は免許があっても無力だ」という話を伺い、強く印象に残りました。以来、私は「患者さんにとっての幸せは何なのか」「働きやすい環境・体制とは何なのか」考えるようになり、将来は医療従事者を取り巻く環境を整え、安心安全かつ高度な医療を提供することで人々の健康を支えたいと思うようになりました。編入学を決意したのは、「自分の専門分野の臨床現場で働くだけでは見えてこない、歯科に限らず医科も含めた医療行政の全体像を把握し、医療従事者と患者さんの双方に寄り添うような医系技官になることで、日本の保健医療の方向性を先導できるような人になりたい」と考えるようになったからです。とても壮大な目標を立てていますが、歯科技工を学んでみたいと思っていた頃には全く想像もしていませんでした。ですが、編入学が決まり、改めて自分自身の思いを形にできる機会を得られて感謝しています。

私は現在2年生で、主に基礎科目を学んでいます。未だ詳細に解明されていないような分野もあるため、やはり難しい学問だということもありますが、臨床現場と結びつくような点も多く、実際に歯科医師として働くときにどのようにそれらの知識が活用されているのかを考えるととても興味深いです。また、私は主に技工サイドでの知識を学んでいたのですが、これから徐々に臨床科目が増え、特にチェアサイドでの知識や技術を学ぶことをとても楽しみにしています。卒業まであと5年ありますが、まずは医療従事者と患者さんから信頼される良い歯科医師になれるよう、スタートラインに立てるまで新潟での長い学生生活を楽しみつつ、目標に向かって粘り強く取り組みたいと思います。

## より充実した生活を送るために

口腔生命福祉学科1年 佐々木 朱 里



新潟大学に入学して早いもので、もう3か月が経ちました。去年ほどは新型コロナウイルスの影響を受けていないとはいえ、やはり今年もすべて対面授業にはなりませんでした。休みの

日は友人との予定がなければ家でゆっくり過ごす私にとっては、平日学校に行くことが運動不足解消の手助けとなるので対面授業がどのくらい入るのか気になっていました。実際は、1年時は一般教養科目が入るので五十嵐キャンパスに2回、旭町キャンパスに1回の合計週3回でした。これから毎日学校に行かなくてはならなくなるのかと思うと正直今くらいの外出頻度が丁度いいと感じます。このように思っている人は案外多いのではないのでしょうか。そして、口腔生命福祉学科は20人しかいないことや学科の先生方が開いてくださった新入生交流会のおかげですぐに顔と名前を覚えることが出来ました。まだクラスというものがないので、まだ曖昧だったりどんな特徴なのかはこれから知ることになっていくと思いますが、それも含めて楽しみです。部活動についてですが、私は全学部ではなく、医歯学ダンス部にはいることにしました。もともとクラシックバレエを習っていたのですが、辞めてから何年もたっていたのでアップや柔軟で既にブランクを感じました。今まで習ったことの無いキレのあるダンスを習得すべく、ヒップホップのグループに入り、いまは先輩たちに優しく指導してもらい、同学年の仲間と一緒に楽しく部活に勤しんでいます。次に、入学し

た際に、個人的に気になっていたことが、バイトをする暇があるのか？という事でした。私は受験生時代にお世話になっていた塾でバイトをさせてもらっていますが週2回入れて丁度いいか、もう少し余裕があるくらいです。これから後期になるにあたってどのくらい授業が入るのか分かりませんが、臨機応変に対応する力、周りを見て気を使えるようになるために社会に少し出て、自分で働いてお金を稼いでみる、という経験が出来ることにとても充実感を覚えています。私は生まれも育ちも新潟なので実家から大学へ通っています。ですので、ひとり暮らしをすることによって得られる知恵や体験をすることが出来ません。そこで、お皿洗いや洗濯、掃除に料理など、実家を出てから必ず必要になる家事を家ですることになっています。しかし、ずっと家に私だけがいる訳ではなく、親が日中の間にやってくれることがほとんどで、なかなか1人で全てをこなすことが難しいです。これを考えると今実際に一人暮らしをして、バイトや部活、もちろん学校生活もしっかりやりくりしている友人たちや先輩をととても尊敬します。最後になりましたが、大学生活を楽しく送るにあたって、自分の心の余裕を持つことがとても大切だと思いました。人に思いやりを持って接する、時間に余裕を持てるように課題をすぐに終わらせる、金銭的に余裕ができるようにバイトに勤しむ、これを着々とこなしていくことが充実した生活を送る秘訣だと思うので、私もこれを念頭に日々過ごしていきたいです。

## 入学者のことば

### 口腔生命福祉学科1年 大 畠 夢 生

新潟大学に入学してから、あっという間に3か月が経ちました。合格した時の嬉しさや、大学生活への期待と不安とともに迎えた入学式を今でも覚えています。これを機に、これまでの大学生活を振り返りたいと思います。初めの頃は履修登録やパソコンの操作に苦戦し、不安の多い毎日を送っていました。また、対面型と非対面型の講義が混在しているので、初めは慣れなかったのです

が、今では大学生活にも慣れて、友達もでき、充実した日々を送っています。

早期臨床実習は、例年、医歯学総合病院で患者付き添い実習、患者役実習、治療見学実習が行われていますが、新型コロナウイルスの影響で、病院内に入れず、対面型の講義と非対面型のグループワークが行われています。対面型の講義では、医歯学総合病院の各診療科の先生方から専門診療室の説明をしていただきます。1年生のうちから各診療科について知ることで、歯学に対する興味がさらに増しました。そして、理想の歯科衛生士、社会福祉士像を想像することができました。非対面型のグループワークでは、「歯科における専門診療科の必要性を考察する」ために、議論をし、最終的に全体発表をします。グループワークを通して、自分の意見を持ち、しっかりと伝える重要性や、お互いの意見をまとめる難しさを実感しました。このようなコミュニケーション能力は医療現場でも必要不可欠だと思うので、普段の生活でも積極的に多くの人とコミュニケーションをとっていきたいです。

5月には、先生方に口腔生命福祉学科1年生の交流会を開催していただきました。口腔生命福祉学科1年生は20人と少ないため、仲の良い関係をつくれるか不安でした。しかし、アイスブレイクなどを通して、これから4年間を共に過ごす仲間との友好を深められたと思います。先生方、このような場を作っていただきありがとうございました。

歯学部の部活動はとても充実しています。魅力的な部活動が多くあり、入部する部活を決めるのにとても迷いました。最終的に、私は歯学部バスケットボール部に入部しました。私は約3年間バスケットボールから離れていたため、体力がなく、すぐに疲れ果ててしまいます。体力を取り戻して、少しでも上達できるようになりたいです。先輩方が優しく教えてくださり、楽しく活動しているので、入部して良かったと感じています。

これからの大学生活では、様々なことを自主的に学びたいと思います。大学生だからこそ経験できることや新しいことにも積極的に挑戦していきたいです。そして、大学での学びを通して、将来

どのような歯科衛生士、社会福祉士になっていきたいのかを考え、理想とする姿に成長できるように努力していきたいと思っています。これからの4年間は楽しいことばかりではなく、様々な困難にも直面すると思いますが、応援してくれる家族、支えてくださる先生方への感謝の気持ちを忘れずに、仲間と切磋琢磨し、4年間の大学生活を過ごしていきたいです。

## 入学者のこぼ

### 口腔生命福祉学科 3年次編入生 佐々木 史 佳



私は短期大学で3年間歯科衛生士の勉強をし、今年の3月に国家試験を受けて免許を取得後、口腔生命福祉学科に編入しました。

実は私の出身短期大学からは卒業後すぐに進学する人は私が初めてだったため、同級生からは「なぜまた大学に行くのか」「どうしてすぐ働かないのか」などよく聞かれました。私が編入を考えたきっかけには、短期大学での様々な実習の経験が関わっていると思います。地域の歯科診療所、小学校、保育所、大学病院、障害者施設などで多くの患者様や利用者様と触れ合い、気付いたことや見えてきたことがありました。対象者との会話や口腔内の状況から、普段どのような暮らしをしているのか、何を生活課題としているのかなども見えてくるようでした。歯科衛生士はすべての年代の方を対象にお口の健康をサポートします。そのために、より人々の生活に密着した支援ができるようになりたいと思い、編入して社会福祉の勉強も始めました。

口腔生命福祉学科の編入生は英語などのGコー

ド科目や福祉系の科目を主に勉強しています。英語の授業は英語での会話がメインであることに驚き、初めはついていくのに精一杯でした。最近では少し慣れてきて、会話を楽しめるようになってきたように思えます。また、4月の何もわからないうちに福祉施設の見学実習が3回あったことにも戸惑いました。しかし自分の頭の中がまっさらな状態で福祉の現場を見たことで、それぞれが印象に残り、学習するうえで注目すべきところが見えてきたと感じました。そして、6月からは福祉系の各科目でPBLも始まりしました。提示されたシナリオの中から事実や疑問点を抽出し、自分たちで設定した学習課題に取り組むという勉強の仕方は初めてで、入学前から楽しみにしていたことのひとつでした。まだ数回しか行っていませんが、グループ討議では他の人の発表を聴いて毎回刺激を受けます。自分が気付かなかったことを補足してもらえたり、理解できるように一緒に考えたりできることがPBLの醍醐味なのではないかと感じているので、それを一層楽しめるようにこれからも取り組んでいきたいと思っています。

こうして入学前に想像していたよりも忙しい生活を送っていますが、第2のキャンパスライフを満喫しようと思って始めたこともいくつかあります。敢えて全学の部活に入ったこと、必修ではない科目を受講していること、ボランティア活動を始めたこと、バイクの免許を取ったことなどです。細かく話すと長くなるので割愛しますが、いずれも今まで自分がいた世界とは全く違うところに飛び込んだこととなります。そこで色々なタイプの人と出会い、確実に自分の世界は広がりました。自分の知らない自分に出会えることも、将来を考えるうえで必要になってきます。2年間と短い学生生活ですが、多くの経験を積んで様々なものに触れ、学生として学べる機会を大切に過ごしていきたいと思っています。

## 入学者のことば

組織再建口腔外科学分野 大学院1年  
笠原公輝



今年度より、新潟大学大学院医歯学総合研究科の組織再建口腔外科学分野へ入学した笠原公輝です。“かさはらまさき”と読みます。よろしく願います。この度入学者として、

歯学部ニュースへの執筆の機会をいただきましたので、僭越ながら寄稿いたします。

出身は新潟県で、新潟大学歯学部を卒業しました。学生時代は口腔外科に興味があり、大学院に進学するなら口腔外科かなと漠然と考えていました。しかし優柔不断な私は、卒業直前に王道である補綴科もいいのかもなと思ひ、研修は新潟大学医歯学総合病院のBコースを選択し、前期が新潟市民病院、後半が本学クラウンブリッジ診療科で研修しました。

そんな優柔不断な私ですが、前期の2人の指導医に勧められ最終的に組織再建口腔外科学分野への進学を決めました。超高齢社会である日本ではなんらかの全身疾患を持っている方がほとんどです。全身疾患や処方されている薬剤について理解し、どこまでの処置が可能か判断するトレーニングを大学院でやりたいなら口腔外科に進むのがよいとおすすめされました。そんなお世話になった先生から頂いたスクラブを紛失したことが今でも悔やまれます。

口腔外科の大学院は、1年目は教養科目とともに8か月間外来と病棟、4か月間麻酔科で臨床を学びます。

2年目からは基礎研究と臨床研究に分かれ、基礎研究の場合は基礎の教室で動物や細胞等を対象に3年間研究に専念します。臨床研究の場合は臨床を続けながら、患者さんを対象とした研究を行います。私は今のところMRONJに興味があるので、MRONJ関連の研究ができればと考えています。

現在は1年目の外来・病棟期間ですので、外来で先生方の診療の見学、アシストを行い手技のポイントを学び、新患を配当されたときには、実際に診察・処置をおこなっております。

また病棟では入院患者さんの診察・処置、必要に応じて処方や注射などをオーダーします。

研修医のときには、埋伏歯抜歯や生検などの外科処置を経験することがなかったので、思うように手が動かず頭を抱える毎日です。指導医や上級医の先生方には大変ご迷惑をおかけしておりますが、おかげで充実した大学院生活を送ることができています。

抜歯一つとっても1時間の予約枠をフルに使ってしまい、患者さんにはかなり負担をかけてしまっていますが、診療の後に「先生にみてもらってよかったです。」とだけいっていただけることがあり、仕事冥利に尽きます。

大学院4年間という貴重な期間でできるだけ多くのことを吸収し、将来お世話になった先生方に恩返しできればと思います。以上、稚拙な文章でしたが目を通していただき誠にありがとうございました。

## 入学者のことば

歯科麻酔学分野 大学院1年  
枝村美和

2021年4月より、新潟大学大学院医歯学総合研究科歯科麻酔学分野に入局しました枝村美和です。

私は東北大学歯学部卒業後、地元である新潟に戻り、新潟大学のAコースで1年間歯科臨床研修を行い、この春に歯科麻酔学分野に入局させていただくことになりました。

私が歯科麻酔に興味を持ったのは大学生のときでした。患者さんの全身状態を把握し、なにかあれば迅速に対応して手術のサポートをする姿がかっこいいなと思ったのがきっかけでした。その頃はまだ憧れ程度でしたが、1年間一般歯科を学んでいく中で、自分の患者さんの中には高齢で大変な病気を患っている方がたくさんおり、そのよ

うな方たちが歯科治療をより安全にできるように全身管理を学びたいと思うようになりました。また、学生時代に憧れた歯科麻酔の先生の姿が忘れられず、大学院へ進学することを決断しました。

入学してすぐ、実際に患者さんの全身麻酔、静脈内鎮静をやらせていただくことになりました。自分で麻酔計画をたて、患者さんに説明し、手術の際は点滴をとったり、挿管、薬の投与も指導医の先生の指示のもと行わせていただきました。麻酔計画を立てる際には患者さんそれぞれの全身状態の問題点を把握し、どんな疾患でどんな薬を内服しているのかを調べ、どのように対応したらいいのかを考え、先生方と検討させていただいており、全身管理の大切さを日々強く実感しています。また、麻酔のかけ方もそれぞれの先生で考え方が異なり、実際の現場で教科書ではわからないさまざまな視点を学ばせていただいています。

1年生の教養科目に続いて2年生からは研究がはじまりますが、歯科麻酔科では痛みが生じるメカニズムや末梢神経の再生に関する研究を行っています。現在週に1日外来のペインクリニックをみさせていただいています。神経が損傷され唇などに麻痺や痛みが残った方などがたくさんいらっしゃるのを見て、こうした方たちを救う研究に自分が少しでも力になればいいなと思っています。

入学してから約2か月が経過し、さまざまな症例を経験させていただいていますが、今も手術室という独特の環境に緊張しっぱなしです。器具や薬ひとつとっても分からないことばかりで、毎回あたふたしていますが、実際に自分で麻酔をかけていく中で、日々学ばせていただいています。

最後に、こんな私を指導してくださる医局の先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。これからもご迷惑をたくさんおかけすると思いますが、臨床・研究共に学ぶ姿勢を大切に、日々努力していこうと思いますので、ご指導のほどよろしく願いいたします。

## 入学者のことば

口腔生命福祉学専攻博士前期課程1年

平原 茉結

4月より口腔生命福祉学専攻前期課程に入学致しました平原茉結です。私は今年の3月に口腔生命福祉学科14期生として卒業し、学びの環境の整った新潟大学で引き続きお世話になっております。

私は4年間、口腔生命福祉学科で歯科と福祉の2分野を学んできました。入学当初、なぜこの2つの分野を一緒に学ぶ必要があるのだろうと、関係性が結び付きませんでした。今後ますます加速する超高齢社会に対応し、健康の維持・向上のためには医療と福祉の連携が不可欠であるということ講義や臨床実習を通して学び、必要性を実感しました。

正直、口腔生命福祉学科への進学はもともと私が高校時代に志望していた進路ではなかったのですが、この学科で学んできた分野の面白さや仕事のやりがいに惹かれ、気づいたら大学院にまで進んでいました。4年間の大学時代から熱心に指導していただき、大学院への進学を勧めてくださった学科の先生方、そして進学を快諾してくれた両親には感謝でいっぱいです。

大学院に入学してあっという間に3か月が経ちました。日々様々な論文を読んだり、慣れない統計ソフトに悪戦苦闘したりしています。先生方にご指導をいただき、アドバイスを受けながら少しずつ研究を進め始めているところです。2年間、間違いなくあっという間に過ぎていくと思うので、今しかできないことに貪欲に挑戦していきたいと思います。

そして、私は大学院に通いながら新潟大学医歯学総合病院で歯科衛生士として勤務しています。臨床現場で先生方や先輩方から多くのことを教えていただき、まだまだ未熟者であることを痛感し

ながら学んでいる毎日です。自分が実習生だった頃、先輩方にさせていただいたこと、教えていただき嬉しかったことを、今度は自分が後輩たちにできるように、積極的に教育にも関わっていきたいです。大学院での勉強と研究、仕事の両立は大変だと思いますが、学んだことが自分自身の糧になると信じ、この進路を選択してよかったと思えるように頑張ります。

このような世の中の状況が続いておりますので、口腔生命福祉学科14期生の仲間や修士課程の同期にもなかなか会うことが出来ずさみしく思いますが、直接会って近況報告ができる日を楽しみに、離れたところで頑張るみんなに負けないように日々成長していくことが出来ればと思います。

臨床現場での学び、そして研究での学びを今後患者様に還元していくことができるように、何事も日々一生懸命頑張りたいと思います。これからよろしくお願い致します。

## 大学院に入学して

口腔生命福祉学専攻博士後期課程1年

石山 茉佑佳



今年度より口腔生命福祉学専攻博士後期課程に入学しました石山茉佑佳と申します。

私は口腔生命福祉学科を11期生で卒業しました。卒業後はがんセンターに就職し、2年間勤務していました。がんセンターでは、手術、抗がん剤治療、放射線治療を受けられるがん患者の口腔ケアを行っていました。大学を卒業してすぐにごんセンターで働くことは、知識も経験も不十分であった当時の私にとって非常に大変でした。全身疾患を患っている患者の診療に

おいては、口腔内の知識だけではなく、口腔内以外の知識も必要とされます。そのため、がんセンターでの勤務は常に勉強の毎日でした。2年間とても貴重な経験をさせていただいたと感じています。

がんセンターで満期終了を迎えようとしている時に、新潟大学医歯学総合病院で歯科衛生士を募集するという話を耳にしました。そして、配属先は周術期の歯科管理を行なっている医療連携口腔管理治療部と聞き、「なんとしても働きたい!」と思いました。そして、有難いことにご縁があり、今では希望の部署で勤務させていただいています。

現在は、がん患者のみならず、循環器内科や整形外科の手術を控えている患者、大量ステロイド療法を控えている患者など、様々な疾患を抱えている患者の歯科管理を行っています。症例数も非常に多く、まだまだ勉強が足りないと感じる日々であり、先生方や先輩衛生士さんの指導のもと、業務に励んでいます。

そんな私が大学院への進学を決めた理由は、学会発表を行ったことがきっかけです。私自身、今まで学会発表の経験はほとんどありませんでした。どのような手順で研究を進めていいかわからない中、周りの方々の力を借りてなんとか発表を終えることができました。その際に、もっと知識を身につけたい、研究方法について学びたいと強く思うようになり、大学院への進学を決めました。現在はコロナ渦であり、対面での授業はできないため、先生方とメールで課題のやり取りを行ったり、Zoomで講義を受講しています。仕事との両立は想像以上に大変で、今は課題をひとつひとつ取り組むことに精一杯ですが、大学院で多くのことを学んでいきたいと思っています。歯科衛生士としてもまだ4年目であり、技術も知識も未熟ですが、これから3年間で成長していきたいです。どうぞよろしくお願いいたします。